

課題名 いちご「まりひめ」の高品質・安定生産
 指導対象： 那賀地方いちご生産組合連合会(111名)

1. 取組の背景

H22年に品種登録された県育成品種「まりひめ」は、市場での評価も上がってきており、さちのかに並ぶ栽培面積となっている。しかし、これまで主流品種であったさちのかに比べ、まりひめは、炭疽病に弱く、心止まり株や出蕾遅延株の発生が多く見られることから、原因と対策を示した育苗マニュアルの作成が急務となっている。育苗マニュアルを活用することにより、高品質安定生産に取り組む。

2. 活動内容

(1) 炭そ病検定・花芽検鏡の実施

5月29日、6月18日、6月27日に合計43株の炭そ病検定を実施。

8月30日から9月26日の間にJA営農指導員とともに、6回の花芽検鏡を行い、272株を検定し、適期定植の指導を実施した。また、検鏡できる技術員の育成にも取り組んだ。

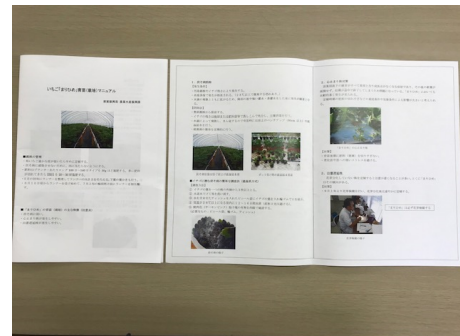
(2) 簡潔な育苗マニュアルの作成・普及

炭そ病防除対策として、育苗期の雨よけベンチアップ、底面給水等の育苗方法について、また、心止まり株対策、出蕾遅延株対策を簡潔に示した「まりひめ」育苗マニュアルを作成した。

作成したマニュアルは、那賀地方いちご生産組合会員(111名)に配布するとともに、農家個別に育苗改善について、底面給水等の説明を実施した。



花芽検鏡



「まりひめ」育苗マニュアル

3. 具体的な成果

(1) 花芽検鏡の実施による適期定植指導

花芽検鏡については、特に間欠冷蔵処理した株については、以前、出蕾遅延株の発生が問題となっていたが、花芽分化確認後の速やかな定植等により、今年度も出蕾遅延株はほとんど発生しなかった。

花芽検鏡を実施するにあたり、検鏡できる技術員の育成が必要であり、今回、新たに1名のJA営農指導員も検鏡技術を磨くため、参加してもらい、次年度に向け、技術養成を行った。

(2) 「まりひめ」育苗マニュアルの作成・普及

炭そ病対策として、雨よけベンチアップ+底面給水育苗を推進した結果、1農家が30年産の育苗から底面給水育苗を取り入れた。また、2戸の農家が31年産の育苗から底面給水を実施することとなった。

4. 農家等からの評価・コメント

(1) 花芽検鏡の実施による適期定植指導 (紀の川市A氏)

間欠冷蔵処理をしているが、以前は、出蕾遅延株が多く発生していた。H29年産では、花芽検鏡で花芽分化確認後の定植を徹底することで出蕾遅延株の発生を抑えることができた。今年も花芽検鏡により、分化を確認してから定植したことで、出蕾遅延株の発生はなかった。今後も検鏡を実施してほしい。

(2) 底面給水の導入 (紀の川市B氏)

これまで、ベンチアップ育苗はしていたが、炭そ病対策のため底面給水育苗を始めたい。今年は、8月に実際に底面給水育苗を行っている農家を紹介してもらい資材や効果を聞き、資材購入をし、31年産に向けて準備をしているところ。底面給水育苗を実施することで、炭そ病のリスクを減らせたら良いと考えている。

5. 指導員のコメント (那賀振興局農業水産振興課・主査・今井幸子)

(1) 花芽検鏡の実施による適期定植指導

まりひめについては、その品種特性(出蕾遅延株の発生)から、花芽検鏡により花芽分化を確認してから定植することが必須となっている。今後、まりひめを普及するに当たっては、花芽検鏡は重要な業務となり、技術者の育成も必須である。普及指導員だけでは、検鏡を行うには限界もあり、JA営農指導員の協力も必要で、今後も、普及指導員並びにJA営農指導員の検鏡技術を育成することが重要と考えている。

(2) 「まりひめ」育苗マニュアルの作成・普及

まりひめの炭そ病対策については、雨よけベンチアップ+底面給水育苗が重要だが、管内の生産者は、ベンチアップはしているが、底面給水育苗はまだ、普及していない。また、心止まり株や出蕾遅延株などの対策も普及の必要がある。今回、簡潔な「まりひめ」育苗マニュアルを作成、配布したことで、これらの課題と対策を普及する1歩となった。今後も、マニュアルを改善させながら、育苗環境を改善していきたいと考えている。

6. 今後の展開等

- 1) 花芽検鏡による適期定植の推進・花芽検鏡技術者の人材育成
- 2) 育苗技術の改善